

教育目標	「学園は、教える者と教えられる者とが、相互の信頼によって相互に生かされる精神的な共同体」という理念の下、知・徳・体を錬成し、調和ある人間像を確立する。						
経営方針	(1) 「自律的な精神」、「思考力と創造的な知性と技量」、「自然愛や人間愛を大切に作る豊かな情操」を培う。 (2) 「日本人としての美徳を育て、実践的な社会性を養うとともに、国際化・情報化社会のフロントランナーとして、社会貢献できるフェアなリーダーとしての資質」を培う。						
重点目標	I 知育の推進	II 徳育の充実	III 健康な身体の育成	IV 豊かな生活の追求	V 家庭地域との連携	VI 生徒募集の充実	VII 教育施設設備の活用
評価項目	令和7年度具体的な方策または評価項目を評価する具体的な指標	令和7年度実施状況	学校自己評価		評価委員評価		
			評価	教員コメント ▲：改善 ◇：提言	評価	評価委員コメント ▲：改善 ◇：提言	
I 知育の推進	<p>授業の充実と難関大学進学に向け啓発・学びの自覚向上</p> <p>① 数・英等で発展学習実施 3grp 編成と運行の工夫 英検 3/P2/2/P1 級等主に二次指導（放課後等） 英語「NEW TREASURE」採用、「Metro」継続</p> <p>② 国・数・英等で反復学習、底上げ推進 各単元の各問題演習の達成率共有</p> <p>③ 補習補強の柔軟な実施、自己学習力の育成 ICT活用：スタディサプリ運用の工夫 到達度テスト・課題／チェックに活用 デジタル指導書の活用 放課後学習の活用 各単元の各問題演習の未達成部分の補習 授業のライブ配信</p> <p>④ 進路講演・キャリア教育等啓発指導・活動を実施 上級生、OB、進路担当、学年、外部講師招へい MIRAI Project (M/P) 時数増し キャリア教育推進</p> <p>⑤ 学力推移調査前後の学級／学年指導 個別目標設定や情報共有（中高関係職員）</p> <p>⑥ 授業計画、副教材の見直し</p> <p>⑦ 学習時間記録と把握 個別／一斉指導 フィードバック (FB) による 家庭との協働充実 一斉指導</p>	<p>① 各学年英数の3grp 習熟度編成を実施。時期、編成変え等は学年の実情に合わせた。J2J3 数学年度途中より都合 2grp 展開となった。英語の「N/T」は円滑に移行できた。進捗展開の工夫をさらにやりたい。</p> <p>② 日常的な反復演習に取り組んだ。達成度確認の演習や単元テストなどさらに精度を高めた。</p> <p>③ 放課後学習の一環として数英の補強講義を後期実施。発展学習を望む生徒の興味関心を喚起した。また、課題の達成度に応じて補習等に取り組ませた。スタディサプリ運用については活用状況を鑑み今年度をもって終了とした。授業の0/L 配信は必要に応じて適宜実施。0/L 英会話が試行され、また、オースタムキャンプ次の英語集中トレーニングも視野に入った。</p> <p>④ 3月に J3 対象進路講話を実施予定。 9月から2月にかけて探求学習（M/P）を実施。（株）トゥワイス・リサーチ・インスティテュートが提供する「TWICE PLAN」の「グローバルリサーチワーク」J1、「企業インターンワーク」J2J3 を活用し、社会課題解決学習や企業インターン体験活動を行った。PC を使ったG/W が定着し流れができた。内容の精度に差があるものの概ね良好な活動ができています。 ※G/W: グループワーク</p> <p>⑤ 結果を共有し、個別と学年の目標を意識させ、事前事後指導等を行い、自己学習力や実践力につなげたい。 中高共有フォルダー継続。</p> <p>⑥ J2J3 数学について年度途中より 2grp 展開となった。副教材について変更なし。</p> <p>⑦ 明誠ダイアリーを定期的に確認し、近況を適宜共有。学級や学年による差に注意しておきたい。</p>	<p>A 25%</p> <p>B 58%</p> <p>C 10%</p> <p>D 7%</p>	<p>・数学の上位者に対する補講を行っていただいているのはありがたいと思います</p> <p>・中学生（特に中1）に7時間の日程は、体力的にもたいへんな面もあるが、授業の充実につながっている。</p> <p>・大学受験において、多くの内進生がよい結果を残していることから自明である。</p> <p>・習熟度別を取り入れたり、学力向上に向けて工夫されている。</p> <p>◇難関大学へ向けた学力向上という点では英検などの合格結果からわかるが、その他諸データの分析・考察を共有し、対策の検討をできるようにしたい。</p> <p>◇啓蒙活動として、地元の静大や県大をはじめとして、もっと大学進学に向けての全体集会や学年毎の取り組みがあっても良いのでは。</p>	<p>A 25%</p> <p>B 75%</p> <p>C %</p> <p>D %</p>	<p>◇内進生の英検取得状況や補講のPRをもっと行っ てはどうか。</p> <p>◇AI の普及が進んでおり、一層思考力・想像力・ 創造力を培う M/P のようなプロジェクトは必要で ある。</p> <p>◇中高一貫のメリットを活かした特長のあるカリ キュラムを期待している。</p> <p>・中学から大学を意識し、学習意欲を高められる 取組の中で、実際に大学を見学しキャンパスの雰 囲気に触れ、将来のイメージを持つのは良いと思 う。</p> <p>・保護者同伴での静大・県大へのキャンパス見学 を学校イベントとして行うことで、中学生の段階 で「私はこの大学にいきたい。」などのイメージ が膨らみ、より目標へのイメージが鮮明になるこ とで学力向上への追い風となると感じる。</p> <p>・具体的な指標に対して実施状況から実践されて いると判断できる。また、現状に満足せず学校自 己評価においてレベルアップに向けたコメントが 随所で感じられる。</p>	

<p>外部模試等で 学力把握</p> <p>在籍</p> <p>J3 62名 J2 64名 J1 59名</p> <p>外部模試等で 学力把握</p>	<p>① ベネッセ学力推移調査三科目受験と事後指導</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>64以上</td> <td>60以上</td> <td>50以上</td> <td>40以上</td> </tr> <tr> <td>J3</td> <td>3(1)%</td> <td>3(6)%</td> <td>33(30)%</td> <td>50(48)%</td> </tr> <tr> <td>J2</td> <td>3(3)%</td> <td>3(6)%</td> <td>33(32)%</td> <td>41(45)%</td> </tr> <tr> <td>J1</td> <td>5(3)%</td> <td>7(4)%</td> <td>27(32)%</td> <td>36(40)%</td> </tr> </table> <p>※J1は第一回目以降検討 ※それぞれの数値は単純の数値を表す ※()内は令和6年度の目標数値、参考 ※1月の結果は、3月到着予定</p> <p>② 実力確認テスト(明誠高校入試)受験</p> <p>J3: 目標進路の学力水準達成 5科目 J2: 基礎基本問題の習熟と確認 3科目</p> <p>③ 英検受験</p> <p>年度末(2月)の時点</p> <table border="1"> <tr> <td>J3</td> <td>準2級以上</td> <td>41(19)%</td> <td>3級</td> <td>43(39)%</td> </tr> <tr> <td>J2</td> <td>3級以上</td> <td>56(29)%</td> <td>4級</td> <td>40(43)%</td> </tr> <tr> <td>J1</td> <td>4級以上</td> <td>35(32)%</td> <td>5級</td> <td>35(45)%</td> </tr> </table> <p>※それぞれの数値は単純の数値を表す ※()内の数値は令和6年度の目標数値 ※2月の結果はこれから</p>		64以上	60以上	50以上	40以上	J3	3(1)%	3(6)%	33(30)%	50(48)%	J2	3(3)%	3(6)%	33(32)%	41(45)%	J1	5(3)%	7(4)%	27(32)%	36(40)%	J3	準2級以上	41(19)%	3級	43(39)%	J2	3級以上	56(29)%	4級	40(43)%	J1	4級以上	35(32)%	5級	35(45)%	<p>① J3 9月② 64< 0% 60< 3% 50< 34% 40< 50% 4月① 64< 0% 60< 1% 50< 24% 40< 54% 最上位層育成に課題が残ったが、中位層増加、底上げに成果を収めた。</p> <p>J2 1月③ 64< 1% 60< 3% 50< 27% 40< 44% 9月② 64< 1% 60< 3% 50< 15% 40< 49% 4月① 64< 1% 60< 4% 50< 16% 40< 50% 偏差値50以上が増加。底上げも進んだ。集団づくりや最上位層の育成に留意したい。</p> <p>J1 1月③ 64< 4% 60< 8% 50< 12% 40< 47% 9月② 64< 3% 60< 0% 50< 31% 40< 36% 4月① 64< 3% 60< 3% 50< 27% 40< 28% 最上位層・上位層が複数出た。中位層に刺激策を施し、底上げをさらにねらいたい。</p> <p>②J3 通年学習に勤しむ姿が見られた。自己目標に及ばない点について総復習を行い、3月下旬のスタディサポートに備え、好スタートを切らせた。</p> <p>J2 概ね既習事項に対しできる範囲内で解答している。レベルアップを果たした者もあり、また、全体的に成長を見ることができた。4月のベネッセテストを意識し、次の学習集団形成を目指したい。</p> <p>③</p> <table border="1"> <tr> <td>J3</td> <td>2級</td> <td>準2級</td> <td>3級</td> <td>4級</td> <td>5級</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>2(3)%</td> <td>24(28)%</td> <td>52(37)%</td> <td>6(18)%</td> <td>6(4)%</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>0(3)%</td> <td>17(20)%</td> <td>51(43)%</td> <td>14(23)%</td> <td>11(4)%</td> </tr> </table> <p>1級 1名、準2+ 4名 堅実な取り組みにより、底上げが徐々に進んだ。 ※()内の数値は令和6年度の実績</p> <table border="1"> <tr> <td>J2</td> <td>2級</td> <td>準2級</td> <td>3級</td> <td>4級</td> <td>5級</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>0(0)%</td> <td>8(13)%</td> <td>30(30)%</td> <td>44(35)%</td> <td>8(19)%</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>1(0)%</td> <td>3(3)%</td> <td>20(33)%</td> <td>33(38)%</td> <td>7(22)%</td> </tr> </table> <p>準1級 1名 全体で引き続き取得意欲を盛り上げていきたい。</p> <table border="1"> <tr> <td>J1</td> <td>2級</td> <td>準2級</td> <td>3級</td> <td>4級</td> <td>5級</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>4(2)%</td> <td>7(3)%</td> <td>12(9)%</td> <td>21(40)%</td> <td>28(31)%</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>1(2)%</td> <td>3(0)%</td> <td>6(8)%</td> <td>18(23)%</td> <td>28(35)%</td> </tr> </table> <p>受験意欲が高く、よい成績を出す者もあり、良好な学習環境を増進させている。</p>	J3	2級	準2級	3級	4級	5級	2月	2(3)%	24(28)%	52(37)%	6(18)%	6(4)%	10月	0(3)%	17(20)%	51(43)%	14(23)%	11(4)%	J2	2級	準2級	3級	4級	5級	2月	0(0)%	8(13)%	30(30)%	44(35)%	8(19)%	10月	1(0)%	3(3)%	20(33)%	33(38)%	7(22)%	J1	2級	準2級	3級	4級	5級	2月	4(2)%	7(3)%	12(9)%	21(40)%	28(31)%	10月	1(2)%	3(0)%	6(8)%	18(23)%	28(35)%	<p>A 30% B 55% C 6% D 9%</p> <p>・生徒の実力の把握はしっかりされていると思う。 ・英検に積極的に挑戦する姿がたくさん見られた。</p> <p>◇模試の機会が多いのはいいと思うが、外部受験等を経験させることも多少必要かもしれない。</p> <p>▲授業担当者は模試の結果が十分に共有されていない面もある。共有の手だて確認と連携の徹底を望む。</p>	<p>◇模試の結果について、生徒が各教科の振り返りを行う際に授業担当者・担任にシートを提出し、全体及び長所短所の振り返りを行い、また共有するなどの工夫をすると良い。</p> <p>◇PDCAサイクルの活用を中学時代から継続して、改善方法を身につけていく。</p> <p>A 12% B 88% C % D %</p> <p>▲テストの経験は、改善の機会であり同時に啓発の機会あることを、実践的に経験していく。</p> <p>・結果(数字)を見ると、生徒たちが積極的に取り組んでいる様子がわかる。</p> <p>◇外部模試は自分の学力を客観的に把握できるだけでなく、弱点を克服する貴重な機会である。受け放しにならないよう受験後の更なる学習指導をお願いしたい。</p> <p>・生徒が安心して模試に臨み、その結果を次のステップに活かせるように引き続きサポートをお願いしたい。</p>
	64以上	60以上	50以上	40以上																																																																																									
J3	3(1)%	3(6)%	33(30)%	50(48)%																																																																																									
J2	3(3)%	3(6)%	33(32)%	41(45)%																																																																																									
J1	5(3)%	7(4)%	27(32)%	36(40)%																																																																																									
J3	準2級以上	41(19)%	3級	43(39)%																																																																																									
J2	3級以上	56(29)%	4級	40(43)%																																																																																									
J1	4級以上	35(32)%	5級	35(45)%																																																																																									
J3	2級	準2級	3級	4級	5級																																																																																								
2月	2(3)%	24(28)%	52(37)%	6(18)%	6(4)%																																																																																								
10月	0(3)%	17(20)%	51(43)%	14(23)%	11(4)%																																																																																								
J2	2級	準2級	3級	4級	5級																																																																																								
2月	0(0)%	8(13)%	30(30)%	44(35)%	8(19)%																																																																																								
10月	1(0)%	3(3)%	20(33)%	33(38)%	7(22)%																																																																																								
J1	2級	準2級	3級	4級	5級																																																																																								
2月	4(2)%	7(3)%	12(9)%	21(40)%	28(31)%																																																																																								
10月	1(2)%	3(0)%	6(8)%	18(23)%	28(35)%																																																																																								

		④ 各試験結果受取後の一斉学級／学年指導情報や目標の共有 (中学部・高等部・教科担当)	④ 各学力層の到達度の管理とフォロー指導の充実に注力したい。				
1 知育の推進	生きる力や総合力をはぐくむ活動の設定	① 学習・体験活動等とその目標成果の整理・広報・見える化・発表等を通し、主体性、総合力育成の場とする 行事ごとの一斉指導 手立ての引き継ぎ ・MIRAI Project キャリア教育推進 全学年 後期より 配当時間増加 ・体験入学会運営と校内ツアー実施 J2 6月交流会 2月 ・説明会のプレゼン担当や体験学習会の講師／助手 内進生 J1～S1 通年 ② 実行委員会を組織した委員会・生徒活動主体的な目標設定・協働充実 リーダーシップ・フォロアシップ育成 ③ 発達段階や興味を踏まえ、朝読書を奨励する強化週間の取り組み 成果のアウトプットと共有、周知により自己分析と他者の理解を促進	① 自己目標や主要行事の振りかえりシートを通年で活用。自己の考察の部分を中心に引き出したい。 MIRAI Project の取り組みによって主体性や社会性を培う機会が向上、生徒の自覚も高まっている。培われた力は今後の諸活動に繋がると確信した。 J1J2 のO/L受信も継続。学級／学年発表等採点方法、段取等を工夫し、よい刺激となり、精度も向上した J2 の中学体験入学ツアーでは計画的に小学生たちをエスコートし、学校案内や説明を行うことができた。新企画があってもよいかもしれない。 説明会や体験学習会で登壇したり、講師助手として活躍したり、有志活動に良く取り組めた。これらの活動で培われた行動力は将来必ず活きる。 ※O/L：オンライン ② 委員会、学年、生徒会等がそれぞれ行事運営に取り組んだ。スポーツデイ、青藍祭、ダンスデイ、(3送会3月)など主体的に取り組んだ。 ③ 多彩な文芸コンテストへの入賞者を出すことができたように読書への意識を保持した。また、愛読書の紹介などのプレゼンを強化週間で実施し、集団育成にも貢献した。一方、読書への意識が未熟な者も散見された。	A 30% B 54% C 6% D 10%	・総合学習の中で、人前でプレゼンをする力やわかりやすい資料を作成する力が身につけていると思う。 ・多彩な行事等を通して育まれていると思われる。 ・道徳や各行事を有効に活用して成長させていると思う。 ◇生徒の自助・自立能力の育成は大きな課題である。その点で生きる力や総合力という点で担任の先生方やチームでの取り組みの必要性が以前にも増している。 ◇自然災害等を含む防災教育へのスキル向上が不可欠である。	A 25% B 75% C % D % % %	◇小学生の明誠体験入学ツアーに生徒が関わることで、生徒自身が最も成長するチャンスになると毎回感じる。いろいろ発展させ、この成長のチャンスを更に活用してはどうか。 ◇中学生へのアンケートを実施し、小学生の時の体験入学参加について聞くなど、さまざまな企画を参考にして、新企画案に取り入れてみてはどうか。 ・ダンスデイは明誠中学の代表イベントだと思う。 ・朝読書の強化はとても良い。読書のプレゼンは継続してほしい。 ◇防災教育へのスキル向上の際、G/Wで防災新聞を作成してはどうか。 ・M/Pなどの発表会を通して、分かりやすく説明できる力を身につけてほしい。 ◇朝読書の教材の一つとして、新聞のコラムを活用してほしい。
	日本文化理解と国際教養養成 (総合学習)	① 日本文化理解行事实施【(2)回/年】 J1 自然体験、富士山学習、地域探訪 J2 寺社宿泊研修、企業／都市探訪 J3 寺社・精神文化調べ、企業研修、地域・古都研修 目的理解と個々のテーマの設定	① J1 4月国立中央青少年交流の家宿泊研修、10月浜松フラワーパーク、中日新聞社浜松都田工場、竜ヶ岩洞探訪。 J2 4月可睡齋宿泊研修、10月東京オータムキャンプ 1日目 横浜中華街、アセアンセンター/WFP協会、JTBスポーツ部・東京大学、Hイースト21 宿泊・テーブルマナー研修 2日目 JICA地球ひろば、科学技術館 J3 4月 富士山世界遺産センター、富士ミルクランド 10月 関西修学旅行 バス2台で往復。1日目慈光院抹茶体験・法話、法隆寺、平城宮跡、2日目東大寺、興福寺、金魚ミュージアム、宇治平等院、伏見稲荷大社、	A 24% B 55% C 6% D 15%	・修学旅行や各学年のキャンプなどを通じてしっかりと養成に向けた教育活動が行われている。 ◇中学校でもオンライン英会話など取り入れたら話す力や英語の力がさらに向上すると思う。 ・ミライプロジェクトや修学旅行に向けてなどの総合的な学習の時間にある程度取り組みが出来ている。	A 25% B 75% C % D %	◇修学旅行報告書の工夫(事前調べで空欄を設けて、事後記入できるようにする)など。 ・経験や体験は子供たちにとって欠かせない勉強の一つ。 ◇国際教養として異文化を学ぶことは重要だが、英語力は不可欠。ネイティブスピーカーとの英会話の機会を設け、「生きた英語」を学ぶカリキュラムがあるとよい。 ・生徒同士の交流により協調性を学べる良い機会であり、成長につながる。視野も広がる。 ◇今時はAIでの英会話が可能になっており、学習のハードルは一層低くなっている。オンライン英会話を取り入れて欲しい。

	<p>日本文化理解と国際教養養成 (総合学習)</p>	<p>② 講演や交流会の実施・探究活動 J1 郷土・企業 J2 医療・企業・進路 J3 医療・企業・進路 自己分析と展望</p> <p>※中間 経過 7/5 アンガーマネジメント講話(1~3年) 保護者5名参加</p> <p>③ 英会話授業【週1回】とアウトプット実践 「Metro」の計画的活用 J1~J3</p> <p>④ 禅寺の活用 学校理解の促進と生活のヒント獲得</p> <p>⑤ 日本文化・国際教養講話／講演実施 ※全校講話含む</p>	<p>3日目タクシー班別研修(6年目)、京都駅散策、4日目嵐山周辺班別研修</p> <p>② J1 4月富士山周辺W/R、10月竜ヶ岩洞・フラワーパーク探訪、中日新聞、10月「警察が取り締まる違法薬物(警察)・覚せい剤の歴史的背景(学校薬剤師)」講演、1月「MIRAI Project」による「グローバルリサーチ」発表・研鑽、3月進路課長進路講話</p> <p>J2 4月可睡斎法話、10月「警察が取り締まる違法薬物(警察)・覚せい剤の歴史的背景(学校薬剤師)」講演、10月国際交流機関等探訪、12月「賢い消費者の卵育成事業」出前授業、1月「MIRAI Project」による「インターン研修」発表・研鑽、3月進路課長進路講話</p> <p>J3 4月富士山世界遺産センター、富士ミルクランド見学、10月「警察が取り締まる違法薬物(警察)・覚せい剤の歴史的背景(学校薬剤師)」講演、1月「MIRAI Project」による「インターン研修」発表・研鑽、3月進路課長進路講話</p> <p>「MIRAI Project」は、中間(学級)・最終(学年)の発表を経て代表チームを決定した。 上級生プレゼンを視聴することにより学びを深めた。よく自覚し、半年間活動を継続できた</p> <p>③ TT授業の副教材「METRO」を継続。英検の二次対応力にも貢献。</p> <p>③ J2 4月可睡斎宿泊研修実施。道徳授業と併せて日常のヒントをいかに得るか指導時留意。</p> <p>⑤ 富士山学習とJ1グローバルリサーチ・J2国際交流機関訪問・J3関西修学旅行と繋がった。O/L英会話試行、次年度J2 A/C時の語学等研修も視野に入り、国際面に注力。</p>		<p>◇プレゼンテーションは、自分の意見を発信し、他者の意見を傾聴し、ディスカッションスキルを育む点で総合力の重要な基盤となる。少人数制のメリットを活かし、人前でのプレゼンスキルの早い段階で身につけさせてほしい。</p> <p>・プレゼン力や資料作成能力は、社会人としても大いに求められる。このまま引き続き養ってほしい。</p>
<p>II 徳育の充実</p>	<p>基本的生活習慣の確立・理解と自己評価</p>	<p>① 身だしなみと挨拶の指導 校風検査【1回/月】 事前事後指導の充実</p> <p>④ TPOに合わせた所作・マナー・人間関係・授業態度等を発達段階をふまえて、指導検証する。 打合せ、部会等にて情報交換し、一斉指導の手立てを共有する。</p> <p>③ 私物貴重品管理：整理整頓・持ち帰り 清掃指導の徹底 振り返り：なぜ必要かを理解</p> <p>④ 欠席・遅刻・早退の減少 基本的生活習慣の充実</p>	<p>① 男女別、複数の担当者で実施。頭髪以外は担任がフォロー指導実施(4年目)。爪の長さ、ズボンの折り目不足(男子)に注意。</p> <p>② 概ね人間関係の問題やSNS対策に関して早めに対応できた。多少工夫が必要な観がある。所作や態度の指導に関して中高一貫の意義を踏まえ、全員で即実践の場所としたい。アンガーマネジメント講座等の講演も役に立った。</p> <p>③ 若干私物放置が増えたが、概ね適切に指導管理できた。日常生活に油断慢心することなく注意していきたい。啓発の学年/全体指導も継続したい。</p> <p>④ 欠席等一部あるが、概ね悪くない。後期では感染症の影響で、出停が増加し、J3で学年閉鎖を実施。「基本」の心構えについて啓発を要する。</p>	<p>A 30% B 57% C 9% D 4%</p> <p>・生活全般に落ち着きが見られた。 ・教室の環境整備、服装などは常にしっかりしている。 ▲生徒の自立・自律力育成に課題が多い。チームでの諸取り組みが求められている。年齢相応な自立・自律力育成が課題。 ▲学習習慣の定着にまだまだ課題がある。 ・聞き方、話し方について、4月当初に各学年学級でオリエンテーションを十分に行う。 ▲基本指導項目を確認し、全職員が共通理解し、同じ基準で指導に当たる。 ・遅刻や欠席が少なく基本的生活習慣は概ね良好であると思われる。 ◇欠席の目立つ生徒や通院している生徒については保護者や教員間での連携や情報共有が一層必要だと考える。</p>	<p>A 37% B 63% C % D %</p> <p>◇直ちに全員が身につけられることではないので、継続しての指導は大変だろうが、今後とも情報共有等により連携して取り組んでほしい。 ・身だしなみなどとてもしっかりしている印象である。 ・登下校中の生徒を見る限りでは身だしなみに問題はなく、適切に指導されていると感じる。 ・生活習慣では、自立と協働の均衡が大切。 ◇5Sの徹底が求められる。 ◇「保健便り」で感染症流行の兆しを伝え、早めの対策を促すなど、健康維持を図ることにより学校生活を充実させてほしい。</p>

		振り返り：なぜ必要かを理解				
		⑤ 基本的な生活習慣近況について情報発信共有 家庭や学校全体の現状確認と指導力充実 生徒の自尊感情向上	⑤ 各種アンケートからの情報を即共有し対策を講じた。諸通信において、学校生活の生の情報を伝えたり、啓発的な内容をタイムリーに提供した。			
特設道徳や実践的生徒指導の機会充実	① 本校理念の浸透、一斉道徳講話実施【6回】 集会実施【3回】 人間関係理解特別講演実施	① J1年3回、全学年年3回、計画的に実施した。「初心」や「先度他心」について時宜に即して講話を行い、学校生活のヒントを示した。	A 21% B 55% C 12% D 12%	・毎回の全体道徳の中での本校理念を、生徒の口から聞くことも増えた。 ・学年、学級でその時必要な項目を授業で扱う。 ・生徒の行動を見届け、評価し伝えていく。 ・自分の置かれている状況を把握し自分の能力を伸ばす意識の呼び起こしは、引き続き行いたい。 ▲道徳の時間の計画的運用について担任間で連携をよくとり、時宜よく指導していきたい。	A 25% B 75% C % D %	◇心の成長による豊さも育んでほしい。 ・デモンストレーションは、自転車関連の事例が多い方がよい。 ◇多感な時期なので、ルールだけでなく根本的な部分をしっかり考えていきたい。 ・SNS利用に伴う問題も含め「いじめ皆無」の指導は継続的にお願いしたい。また、トラブルの芽を確実に摘み取ることのできる教育に期待する。 ・ネット安全安心講座の受講は、今の時代においてスマホを安全に使うためにも良い学びであろう。
	② 有志活動の実施	② 全学年的な取り組みは未実施。入試関連行事に登壇したり、行事に積極的に活動を行う生徒が増えた。高校部に進級し、活躍する者も多少目立つようになった。				
	⑤ 自律性と社会性を培う場を設定し、実践力行動力向上を図る リーダーシップ・フォロワーシップ涵養	③ 主要行事、入試関連行事、MIRAI Project 探求活動等において主体的にグループ活動/学級活動を展開し、チームとしての力を向上させた。高校部で活躍する者も目にする。				
	④ 交通安全マナーの指導と実践 交通安全教室実施	④ 5月に警察・スケアード・ストレイトによる交通安全教室を体育館でS1生徒と受講。デモンストレーションによる実践指導が印象的で、交通マナー意識保持に役立った。				
	⑤ 道徳教科書ノートを年間計画で使用 振り返りをし、共有する。	⑤ 教科書・ノートの計画的な活用を励行したい。				
	⑥ 情報端末管理/使用時の人権問題啓発指導 講演や集会実施	⑥ 年度当初端末の取り扱いのルールを周知した。また、NPO法人eランチによる「ネット安全、安心講座」を受講。功を奏し、目立った問題は起きなかった。				
	⑦ 「いじめ」皆無の指導 【アンケート調査 数回/年】 三配りの精神の涵養	⑦ 「いじめアンケート」と「生活アンケート」の内容を精査し、タイムリーに懇ろな生徒指導をおこなうことができた。また、集会指導を通して、先度他心や三配りの精神について昨年度に引き続き計画的に啓発した。				
	⑧ 成果や伸長について情報発信 現状把握と指導力向上	⑧ 日常の情報共有懇と談会・面談、保護者との連絡を適切に機能させた。月次の中学部通信もよく機能した。近況や啓発、読書案内、予定などの内容を興味深く、紹介した。				
個の尊重と主体性の醸成	① 情報交換で個の把握 「私の紹介」・「私の目標」作成展示	① 打合せ等の情報交換で、迅速な対応と指導に繋がった。「私の紹介」・「私の目標」の作成展示は自己の振り返りや他者理解の推進、学級づくりの点で有意義だった。	A 28% B 50% C 13% D 9%	・一人一人の個性を認め、実践できている。 ・生徒間トラブルが起きた際の先生方の初期対応が丁寧で、生徒自身の成長や個性を大切にしたい関わりが見られる。 ・生徒との対話をさらに充実させる。 ・指導だけでなく、よい点を評価していく。	A 25% B 75% C % D %	◇時間が限られていると思うが、明誠ダイアリーの点検、先生からのコメント等よろしくお願ひします。 ◇子供たちにも自尊心があることを忘れずに、どこまで子供たちの意見を尊重できるかが大切。 ・少人数制であり、生徒一人一人に丁寧に接することができる。 ・生徒に寄り添い、丁寧な対応がなされている。
	② メイセイダイアリの定期点検、 熟読とコメント	② 時宜良く足並みを揃えて活用し、一層効果的に運用したい。				
	③ 養護・カウンセラー・生徒課・委員会等 チームの活用	③ カウンセリングや委員会によって、個別指導と協働に活かした。また講演等、専門家の知見を活かし、指導の精度を向上させた。				

		<p>④ 生徒理解研修会 【全職員で実施】 成長面・プラス面・注意点等伝達 データ共有</p> <p>⑤ 心理検査の実施と評価の活用</p> <p>⑥ 随時良い点や現れ・変化をフィードバック、 全体で共有</p>	<p>④ 生活や行動のあらわれを共有し、生徒理解と指導の 向上につなげた。中高一貫の生徒指導を意識。</p> <p>⑤ 検査は未実施。アンケートやカウンセリングを活用 し、生徒の様子を複合的に理解することに努めた。</p> <p>⑥ 職員間や家庭と学校間のコミュニケーションが適切 に行われ、生徒指導に活かされた。</p>	<p>◇生徒に考えさせる場を意図的に設定する。</p> <p>◇ベテラン教員や役職者のリードの下、チームで課題 に取り組むことによって若手や中堅の教員の資質の向 上も果たしたい。</p>			
<p>Ⅲ 健康な身体 の育成</p>	<p>団体行事の用意 団体行動や 行事運営の基本 も学習</p>	<p>① スポーツデイ実施 【参加率95%以上、(2)回/年】 相手・チームメイト・周囲の理解と 敬意・協働、切磋琢磨 日時の調整</p> <p>② 耐寒持久走取り組みによる身心の錬磨 事前の安定した生活習慣 体育での的確な準備・啓発 会場調整 【参加率95%以上】</p> <p>③ 体育大会を活用し、 チームワーク醸成・団体種目の記録向上</p> <p>④ 武道奨励 時数の確保 武道実施ねらいの理解と浸透</p> <p>⑤ 部活動奨励 【参加率85%以上】</p> <p>⑥ ダンスデイ実施 明朗快活爽やかで、円滑かつ規律ある運行 周囲の理解と感謝の気持ち 創意工夫 自己表現力向上 【参加率95%以上】</p>	<p>① 5月 アルティメット(男子)、ドッジボール(女子) を実施。1年生歓迎と暑さ対策を配慮して5月実施に変 更した。まずまずの手ごたえだった。 3月 ドッジボール(男子)とサッカー(女子)を実施 した。参加率達成、より意欲的に浚刺と取り組むことが できた。</p> <p>② グランドコース2年目。観察や安全管理上の長所を 今年度も実感。タイムとラップ管理は向上した。参加率 は87%。</p> <p>③ 元気や活気がまずまず回復した。各種競技はバラン スが配慮され、中学生にも多少ワクワク感があつたと思 う。進行は円滑だった。長縄跳びの記録は練習不足に見 えた。簡略化行進5年目。</p> <p>④ 男女武道の取り組みとして柔剣を実施した。柔道衣 等は着用しない。基本を学び、ねらいの理解と浸透に努 めた。</p> <p>⑤ 個性伸長と集団育成をねらいとし、参加を促す。 加入率：J11: 96%, J12: 93%, J21: 72%, J22: 81%, J31: 81%, J32: 80%, 全体: 83.8% 前年度より約4%増加。外部団体に参加し ている者もカウント。参加率回復途上。</p> <p>⑥ 11月予定通り実施。今年度も参観者は延べ100名 前後で盛況。J3中心に役割分担を行い、終始円滑に会 を運営。節度を適度に保ち活発に演技と鑑賞を楽しむこ とができた。開会式や閉会式、演舞前後の挨拶紹介を徹 底するとさらに好印象になる。要指導の部分。</p>	<p>A 48%</p> <p>B 42%</p> <p>C 4%</p> <p>D 6%</p>	<p>・修学旅行や各学年での校外学習、文化祭活動などを見 る限り、行事運営の準備や事前学習はしっかりされて いると思う。</p> <p>・中学生の行事の参加はいつも積極的だと思います。</p> <p>・スポーツデイやダンスデイ、耐寒持久走などの行事 に意欲的に取り組んでいる姿が多く見られた。</p> <p>・高等学校と共同の行事と中学生独自の行事が、混在 しているが、どちらにも意欲的に取り組んでいる。</p> <p>・中学独自の様々な行事を通し、醸成されている。</p>	<p>A 100%</p> <p>B %</p> <p>C %</p> <p>D %</p>	<p>・参加率が高い。体験を通して楽しさを実感でき るのはとても良い</p> <p>・参加することでやり抜く力やコミュニケーショ ン能力の向上にもつながる。</p> <p>・上級生に高校生がおり、中高生と一緒に活動で きる点はすばらしい。</p> <p>◇スポーツは結果重視だけでなく、精神も大切に したい。</p>
	<p>団体行事の用意 団体行動や 行事運営の基本 も学習</p>						

<p>IV 豊かな生活の追求</p>	<p>特別活動や課外活動の準備と充実</p> <p>特別活動や課外活動の準備と充実</p>	<p>① キャリア教育の一斉の主体的計画的取り組み 探究活動：MIRAI Project 「world tours」 J1 「企業インターン」 J2 J3 特活・MD内に設定</p> <p>② 青藍祭に、部・学年・学級で参加 創意工夫し、実践力や協働性を磨く場とする リーダーシップ・フォロワーシップ涵養 展示物には価値観教育への成果を記す</p> <p>③ フィールドワーク【(2)回/年】、芸術鑑賞 自身の思考力や発想力向上に資する体験 学習を行う 事前事後指導の充実</p> <p>④ 行事や活動のまとめと発表・展示 学びについて自己分析し、学校・日常生活の 改善に向けてヒントを得る。 自己表現力向上 活動の広報と理解向上</p> <p>⑤ 学習集団の向上(行事・授業等活用) プレゼンや議論を活かし、洞察力、コミュニケーション力や創意工夫する力を上げる 学年混成集団で活動することにより、自他への 関心を深め、共通体験の価値の理解を深める。</p>	<p>① 9月から2月のおよそ半年の間「総合」の時間を 25時間前後担当し探究活動を実施。各学年は約15 グループに分かれ、グループワークに取り組み、課 題解決を試みた。学級発表、学年発表を経て、内容 やチームワーク等磨き上げた。他グループのプレゼ ンを見ることにより学びの質と量、効果を増幅させ た。</p> <p>② J1はオリエンテーションキャンプ、J2は可睡齋の 展示、J3はアトラクションを展開、それぞれ踏襲した。 計画立案交渉、準備、進捗管理、会場セットやオブジェ クト制作等意欲的に取り組んだ。チームワークを通して 多くの経験をし、また協働的な学びの場となった。片付 け等事後対応もよく、感心した。</p> <p>③ 4月と10月に各学年行事を実施し、発達段階に応 じた校外学習を実施した。学びのねらいについて、事前 指導/学習の段階でもう一步踏み込み、考察を深めるき っかけ作りするとよいだろう。 芸術鑑賞教室では「志多ら」による和太鼓公演を鑑賞し た。今回は代表生徒参加型の実技体験もあり、興味関心 をいっそう喚起した。</p> <p>④ 常時ワークシートによる掲示を実施し、自己分析や 各振り返り等級友とのコミュニケーションが進むよう工 夫した。タブレットの活用率も向上させた。グループワ ークの段取り等事前の周知徹底し、クロームブックの効 果的活用を促進した。概ね生徒達は端末の活用について 柔軟かつ熱心に取り組んだ。 活動中の様子など一見地味そうだが、ある行事の一端 としてHP等で広報していくとよいと考える。</p> <p>⑤ 一つ一つの活動の目標の繋がりを意識し、運営指導 した。探究活動のグループワークによって、個人やチー ムの成長にとっても役立った。中一に対しては、発達段階 を意識し、取り組みの展開についてもう少し助言が必要 かもしれない。概ね生徒達はグループワークの組み 組みに充実感を感じている様子が見られ、学級・学年・学校 の一体感の醸成にもつながった。</p>	<p>A 36% B 53% C 4% D 7%</p> <p>・中学生だけの活動について各学年で取り組みがなさ れている。</p> <p>・未来プロジェクトとして、グループ活動を基本に、 調査とプレゼンに対する力は、醸成されつつある。</p>	<p>A 50% B 50% C % D %</p> <p>◇毎年、勉強だけでなく、行事が沢山あり充実し ている。パンフレット等で年間行事をアピール し、充実した3年間を過ごした後に、高校に進学 できることを伝えて得てほしい。</p> <p>◇G/Wが増えてきたように感じる。テスト対策の 一つとして、G/Wで教科の勉強法について学び合 ってはどうか。</p> <p>・プレゼン能力を培うことは絶対に必要だと感じる。</p> <p>・教科書だけでは学べない事柄に触れる機会が充 実している点が、良いと感じる。</p> <p>・様々な活動を通じて貴重な体験ができています。</p> <p>・主体性の育成、探究学習がしっかり行われている と思う。</p> <p>◇地元の中学でも、最寄りの幼稚園で1日実習を 行っている。3回くらいは実施しても良いかも知 れない。</p> <p>◇目標達成シートの活用等いろいろ検討してはど うか。</p> <p>・特に思春期は、多くの褒められた経験をして成 長してほしいと思う。</p>
------------------------	---	---	---	--	--

	<p>特別活動や課外活動の準備と充実</p>	<p>⑥ 各種団体の文芸コンテストに参加 想像力を発揮し、自他の理解を深める</p> <p>⑦ 自尊感情や自己有用感を高め、学び合う仲間であることを自覚する 達成感や帰属意識を得る</p>	<p>J3の順心幼稚園における「ふれあい学習」もよい学習機会となっている。実体験により、自身ばかりでなく、他者や他社会（集団）と接することにより初めて見えてくるものや学びがあり、生徒の実感や達成感は本人が思っている以上に大きいと考える。</p> <p>⑥ 諸定番コンテストに参加を継続した。入選する作品もしばしばあり、機運や意識が向上。全体の文化的な風土づくりにつながった。一つ一つの取り組みが重なり、長い目でみて大きなまとまりが少しずつ見えてくる例。継続することが大事。仲間の側面を見つめることにより、自分自身もより見えるようになり、ひいては全体を俯瞰してみる力を養っている。</p> <p>⑦ ワークシートの紙面活用において、名前・挿絵・装飾等明るい個性的なアプローチが良く見受けられた。これらも一つの自己表現であり、教員はいろいろな角度から受け止め、理解に努める必要があるだろう。活動の分析の面では、クリティカルな部分の意見や主張において弱さを感じることもある。主要行事や特別活動の際、教員側からの問いかけによる、きっかけづくりも励行継続したい。</p> <p>年複数回のアンケートにおいても生徒は正直に振り返りをおこなっている。適時に生徒たちにフィードバックし、励まし・育成のポイントにしていきたい。</p> <p>目立った活動実績に対して必ず顕彰し、ほめ言葉をかけてやりたい。同時に学び仲間や家庭の理解や支援に対しても敬意を言葉で直接・間接に表し、自他の成長を促進し、喜びや達成感を共有していきたい。</p>		
--	------------------------	--	---	--	--

<p>コミュニケーションの増加</p>	<p>① 面談の奨励（希望面談も用意） 【3or 4回/年】</p> <p>② 懇談会・保護者会等実施</p> <p>③ 行事関係文書・アンケート等配布・配信 「すぐー」活用 【2週間以上前】</p> <p>④ 内進高校生の情報も含め生徒・ 中学部近況の発信 「藤枝明誠ニュース」等機関紙 授業配信</p> <p>⑥ 家庭との直接の通信</p>	<p>① 4月新年度個別面談、7, 8月夏休み二/三者面談、 11月個別面談、6, 11月オープンキャンパス期間希望面談、9～2 月適宜個別面談による生活・学習・進級指導等実施。 J3に関して高校進級指導を念入りに実施。 カウンセラー・養護教諭と連携し、家庭とのコミュニケーションにも 注意した。</p> <p>② 5月学級懇談会、9, 2月学級/学年懇談会 保護者懇談会の出席率はおよそ40～90%、オープンキャンパス・ 諸行事、個別面談等来校の機会を鑑みると、まずまずの出席率では ないかと考える。</p> <p>② 各行事2週間前後前に通知を配布・配信した。 諸データも通知するようになってきており、活用度や重要性は 上がっている。</p> <p>④ 3月全学年対象に大学進学の基本や現状について進路課長より 説明した。自校や内進生の様子を見聞し、自身の目標の振り返りと 進路意識の高揚を図った。前期・後期の内進生の進路啓発機会を柔 軟に確保し、一貫生のメリットを活かしたい。 機関紙・授業配信については、個別対応で数件実施。臨機応変に 対応する環境が定着した観がある。</p> <p>生徒の近況に関する情報提供が電話等で適切に行われており、家 庭との良い関係づくりにつながった。教員によって若干の差はある が、節目に合わせて学年の教員ごと連携し、強化期間を意識してい くのもよいと思う。放課後コミュニケーションに少なからず時間を 費やす姿がよく見受けられた。</p>	<p>A 30% B 51% C 6% D 13%</p>	<p>◇個々の家庭と連絡は密に取っているように思える。 特に1年生と2年生は些細なことでも連絡を取り合う 必要がある。</p> <p>▲何か生徒に対して対応した場合に報告として家庭に 連絡して、家庭と協力していくことも概ねできている が、時に連絡・連携が十分ではない場面も見られる。</p> <p>・保護者からの電話対応など、丁寧かつ親身であると 日々思っている。</p> <p>◇行動面や発達面でサポートが必要な生徒のために、 専門の先生がいらっしやると、より良い支援ができる のではないかと思います。</p> <p>・先生方が家庭とこまめに連絡を取り連携に努めてい ると思われる。</p> <p>◇保護者や生徒とよくコミュニケーションをとり、都 度チームでいねいに一定の方針で共有対応していく という意識が大事。</p>	<p>A 50% B 50% C % D %</p>	<p>◇学校でのけがや体調不良は、早めに報告が欲しい。</p> <p>◇説得ではなく、納得できるだけの選択を与える ことが大切。</p> <p>・一般に、学校と保護者のコミュニケーションの 機会はあまり多くはない。藤枝明誠では保護者と の連携がしっかりとしている点が評価できる。</p> <p>◇保護者懇談会の出席率が40%～90%というこ とは、先生方と保護者との連携率も比例している ということではないか。連携する機会確保をこれか らも継続してほしい。</p> <p>・学校と家庭の連携が取れていることは安心感に つながる。</p>
---------------------	--	---	---	--	--	--

V 家庭・地域との連携	広報活動の充実	<p>① 中学部通信・学級通信等の発行【月次】</p> <p>② 「すぐーる」連絡網・SNSの活用 課題学習状況の確認</p> <p>③ オープンキャンパスや説明会等でのアンケート実施とフィードバック (FB)</p> <p>④ 行事や発表会の広報と開放</p>	<p>① 月次で発行を担当。近況や顕彰、今後の予定・啓発記事と学校理解の場として活用した。タイムリーに学校の近況を清々しく伝達し、家庭に有意義な情報を提供した。家庭との風通しを良くする点においても機能した。学級通信は、主に時節の啓発内容を掲載し、学校生活や行事、生活のレベルアップをねらった。</p> <p>② お知らせの配信や臨時または緊急の情報提供手段としてよく機能した。課題のチェックについては研究工夫を続けていきたい。</p> <p>③ アンケート内の各意見・提案や質問について検討し、必要に応じて対応した。</p> <p>④ 青藍祭、半日入学、体育大会、ダンスデイ、耐寒持久走、交流会など開放。特に中高全校の行事やダンスデイは盛況だった。広報については担当と役割等綿密に準備が必要。</p>	A 33% B 51% C 9% D 7%	<p>・諸体験を通し、十分になされている。</p> <p>・2月行事で中学1年生主体であったが、外部への説明会を実施し、明誠の特長を小学生にアピールできたのは良かった。</p> <p>◇中学部だよりを毎月出しているが、HP等での学校の様子発信を増やしていきたい。</p>	A 37% B 63% C % D % <p>・中学1年生主体の外部への説明会実施では、直接小学生へアピールすることで、小学生の心にも働きかけられたと察する。</p> <p>◇家庭との情報共有ツールとして「すぐーる」をさらに活用してほしい。</p> <p>・「すぐーる」の活用は、プリントと違い、「見なかった」を防止できる。</p>
VI 生徒募集	渉外活動の充実	<p>① 各行事の推進とフォロー作業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明会 現役生徒の活用 相談機会の充実 アンケート結果の活用 (改善・FB・PR等) ・半日体験入学 J2生徒の活用 ・交流会 ・理科/英語体験学習会 現役生徒の補助 ・講習会 二回 5教科展開 ・オープンテスト 三回 内容の検討 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明会 5/24 :21(55)名、6/28 :63(71)、7/12 :38(55)、8/2 :47(33)、9/13 :43(67)、11/8 :73(60)、11/22 :40(26)、2/14 :39(40) <p>オープンテストや体験学習会と同時開催。生徒を登壇させ保護者の学校理解を促進した。来校数は年度後半徐々に挽回傾向。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年理科体験学習会 未実施 ・講習会 <ul style="list-style-type: none"> ① 9/3 :39(39)名 ② 10/8 :33(46)名 ・オープン <ul style="list-style-type: none"> ① 7/12 50:(77)名 ② 9/13 58:(77)名 ③ 11/8 69:(80)名 <p>説明会時、学力と学校理解の面を明確に説明した。呼び込み策も練り、活動を展開する必要がある。</p>	A 28% B 46% C 16% D 10%	<p>・オープンテストは力を入れて取り組んでいることだと思います。</p> <p>・小学4、5年生への体験学習や各説明会などは充実している。ドローンを使った体験は好評だった様子。</p> <p>◇小学生が興味関心を引く企画をさらに盛り込んでいくことが必要。</p> <p>◇ネットを利用した募集展開に投資すべき。明誠中の特徴を広報していきたい。「基本重視の学校生活、サポート活動が手厚い」ことを知らせることができればいいと考える。</p> <p>◇生徒募集の人数状況が近年減少している現状を分析し、抜本的な対策をおこないたい。説明会や体験活動の内容の見直しを行う。</p> <p>◇小学校や塾へのパンフレットの配布等をより効果的に行う。</p>	A 25% B 75% C % D % <p>・渉外活動の取り組みが年間を通して熱心に行われている。藤枝明誠の良さをもっと多くの人に知ってもらうために、ネット活用も必要である。</p> <p>◇小学4、5年生の興味あるものを情報収集して、他校がやってない体験を行うと良いかも知れない。</p> <p>◇体験入学、体験学習の様子をHPやSNSでもっと発信すると良い。</p> <p>◇授業料が無償化になるので、違いや利点をさらに積極的にPRする必要があると思う。</p>

VI 生徒募集	渉外活動の充実	<p>・名簿の整理、DMの活用 直近の訪問活動</p> <p>※実績数（ ）内数値は昨年度の数値を表す</p> <p>※中間 経過 5/24 説明会 児童18 保護者21 6/28 半日体験入学 6年 児童44 保護者63 7/12 オープンテスト① 6年 児童44(52) 保護者38 8/2 理科体験学習会 4/5年 児童55 保護者47</p> <p>② 小学校や塾への渉外活動 範囲 訪問・タイミング頻度</p> <p>※中間 経過 小学校訪問(98校) 志太・榛原・小笠・静岡(安倍川以西) 5月 青藍祭・説明会 案内 7月 理科体験 学校案内</p> <p>塾訪問(65校) 志太・榛原・小笠 6月 説明会案内 7月 学校案内 過去問 理科体験案内</p> <p>③ 各種行事の活用；公開と広報</p> <p>④ 「学校案内」 リーフレット；入試関連行事 ポスター作成 グッズの活用</p>	<p>・入試 一次 59(68)名 : 単48(53) 併11(15) 二次 2(2)名 : 単2(2) 併0(0)</p> <p>募集定員70名になり8年目、50(58)名入学予定。出願率81(78)%に増加、女子は54(55)%で横ばい。総受験者数は減少した。併願生の戻りは3名。入学生男子22名(44%)、女子28名(56%)。</p> <p>・4,5年説明会 8/2(土) : 47(33)名 11/22(土) : 40(24)名 2/14(土) : 39(40)名</p> <p>・4,5年体験学習会 8/3(土) : 59(50)名 理科 11/22(土) : 31(26)名 英語 2/14(土) : 37(54)名 理科</p> <p>実施日時やキャンペーンなど、準備や段取りに留意していきたい。内容を振り返り、必要に応じて変更してもよいと思う。</p> <p>③ 小学校訪問約100校。5,6月(青藍祭前)・7月(理科体験前)・11月(英語体験前)・1月(理科体験前)等を基本として訪問した。5月はアポを取り訪問した。 志太・小笠・静岡地区諸々の塾を複数教員が分担し訪問。「学校案内」・「入試行事リーフレット」・学園祭/体験学習案内・通学バス案内・通学費補助案内・過去問題等配布。また行事の都度DMを送付、または電話で各行事の参加を促進した。</p> <p>③ 青藍祭、定期演奏会等に招待した。</p> <p>④ 入試行事年間予定リーフレット、各種リーフ(講習会・オープンテスト・体験学習会・通学補助支給等)を配布ないし送付。体験学習会用自家製ポスター掲示を校内外で適時推進した。</p>	<p>◇参加者の増加を目指し説明会、体験会の内容を見直し、今の小学生たちが参加したいと思うような企画を新しい視点で考えるべきだと思う。</p>	
------------	---------	---	---	---	--

<p>VII 教育 施設 ・ 設備 の 活用</p>	<p>快適な教育環境の実現</p>	<p>① 教室内外美化整理整頓／管理 ロッカー／机の中 貴重品BOX 廊下／階段 清掃／用具入れ 流し／周辺美化 トイレ／用具入れ 靴箱／傘立て 電源スイッチ／電源管理 体育館／雨天練習場 特別教室 施錠管理 管理目的の理解 【放課後巡回 複数回／日】</p> <p>② 駐輪場管理 使用方法、管理目的の理解</p> <p>③ 設備・備品の保全 【放課後巡回 複数回／日】</p> <p>④ 防災教育と訓練の実施 【2回／年】</p>	<p>① 概ね通年まずまずの整理整頓状況を維持することができたが、下級生について行事の後は、ロッカー内の復元が遅れることが若干あったり、ロッカー・机の中・鞆の中等バランスよく整頓ができていないことがあったり、注意を要する時もあった。いずれもSHR中に解決解消できることであり、ひと手間を惜しむことのないように注意していきたい。 移動教室時の机上片付けや更衣の整頓、電源管理等意識的に行動ができてはいるが、十分ではないことも昨年度同様留意する必要がある。 清掃後の雑巾洗いと整頓、清掃用具入れ内の整頓、備品の管理については一部要注意。いずれもSHRやLHR時に対応や啓発は即時可能である。 管理目的の理解や啓発指導、フォロー指導等後手に回っている面もあり、注意が必要である。</p> <p>② 特に目立った問題等なく、適切に駐輪場を一年間使用、維持できた。巡回を行い、現状把握を怠らず、使用方法について時折注意喚起、啓発指導し、トラブルの予防をしていきたい。</p> <p>③ 概ね公共物を適切に使用することができた。乱暴な扱いや行動はほぼなかったが、ものを丁寧に扱っているわけではない場合もあり注意は日常的に必要である。カーテンの破損、フローア表面の消耗、机の天板等定期的なチェックにつとめたい。</p> <p>④ 4月と8月に防災訓練を行った。 4月は一次・二次防災避難訓練を実施。二次避難はグラウンドで、整列、点呼確認終了まで、例年同様の実績できちんと意識を持ち行動することができた。 8月は防災学習会を各クラスにおいて実施した。 プロジェクターとスクリーンをセット、生徒はクロームブックを使用した。焼津市の台風10号被害を動画で視聴したり、ハザードマップを視聴したり、ハザードポータルサイトを確認したりした。また、気象庁の「キキクル」を活用し、多角的に防災情報を視聴収集した。これは新企画で今の時代にあった活動で、よく充実していたと思う。</p>	<p>A 15% B 63% C 15% D 7%</p> <p>・随所に老朽化が見られるが、清潔が保たれており、良好である。</p> <p>◇創意工夫し、善処している。その上で優先順位をつけ経費は掛かるが思い切ったリニューアルをしてもいいと思う。</p> <p>▲教室ロッカーの物が多く、整頓が不十分な生徒も見られた。くり返しの指導により整理整頓が習慣化されるようにしたい。</p> <p>◇近隣の小学校・中学校の施設が充実してきている。取り組めるところから対策を講じていきたい。</p>	<p>A 12% B 88% C % D %</p> <p>・これから先も豪雨の多発は予想される。PCを活用しての行動の学びはプラスになったと思う。</p> <p>・校内は清潔に保たれていると考える。</p> <p>◇学校前の横断歩道、自転車レーンなどの道路標示の劣化が著しく、識別しづらい。通学の安全のために早期改善されることを希望する。</p>
--	-------------------	---	--	--	---